

<b>授業科目名</b>	文化総合講座（宗教・思想）		<b>担当教員名</b>	井狩 彌介		
<b>科目区分</b>		<b>単位</b>	<b>配当年次</b>	<b>実施時期</b>	<b>曜日・時限</b>	<b>形態</b>
教養教育科目	選択	2	1～4	春・秋学期	月・3	講義
<b>授業概要</b>						
<p>ある文明が長い歴史のなかで作りあげてきた文化の様相を「複合文化」という視点で考える。複合文化を形作っているさまざまな側面の中で、宗教と思想はきわめて重要な位置を占めている。この授業では、宗教が歴史のなかでひとの心の中にどのように受け入れられ、生きているかを考えることを焦点に置く。観光を志すものにとってある国や地域の文化の特徴を理解するためには宗教文化についての目配りが欠かせないことを理解してゆく。</p> <p>授業では、文学、宗教を中心として、西洋、インド、日本のそれぞれの文化特徴を考える。</p>						
<b>到達目標</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 長い歴史をもつ文明のなかで文化がどのように形成されてきたかを考え、文化のもつ複合性について理解させる。</li> <li>2. たとえば、具体的な宗教文化遺産(寺院、彫刻、絵画)をみるときに、どのような視点でその背後にある文化の成り立ちを理解するかという、文化遺産についてのものの見方を身につけさせる。</li> </ol>						
<b>授業方法(展開)</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 映像資料を用いて、具体的に宗教文化のあり方の実態についての問題を提示しながら、その歴史背景を考えさせる。</li> <li>2. 授業と併行して配布資料を使い、対話しながら学生の理解度を確認してゆく。</li> </ol>						
<b>関連科目・知識・スキル</b>						
<b>成績評価</b>						
<p>授業の節目で課する「レポート」（視点の確認）および「学期末筆記試験」（宗教文化を見る力の修得度合いを見る）によって評価する。</p>						
<b>教科書・参考書など</b>						
<p>授業のなかで参考書を指示し、かつ適宜に参考資料を配布する。</p>						
<b>履修上の注意事項</b>						
<p>授業に出席すること。指示された参考資料に目を通して置くこと。</p>						

## 授業の柱(単元)と授業スケジュール

1. イントロダクション (授業予定1回)  
文明のなりたちと複合文化について
2. 異文化理解について (授業予定1回)
3. 神話と民話 — みえるものとみえないもの  
物語の背景にある宗教世界 (授業予定3回)
4. 日本文化とインド文化の比較: かけはなれたところと似たところ (授業予定1回)
5. インドの文化と宗教 (授業予定6回 ヴィデオ、スライドなどの映像資料を併用する)
  - 1) 物語の世界 ... ヒンドゥー教の神話
  - 2) 絵画の世界 ... ミニアチュア (細密画) の世界
  - 3) 舞踊の世界 ... インド舞踊と宗教
5. 日本文化へのインド文化の影響 (授業予定2回)
6. 全体のまとめ (最終授業日)

## 学生への一言

授業では、集中して、興味をもったことを手がかりにしながら自分の視野を広げてゆくことを心がけよう。